分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時	期
専門	看護学概論 I	1	15	1 年次 ·	1 学期
担当講師	専任教員(病院での看護経験は	59)	1		
授業概要	看護の基本となる概念(人間・健康・環境・看護・生活)を土台とし、看護とは何かについて考える。実践科学としての看護、看護の役割、看護理論を学びながら、看護の理解と対象への関心を深める。さらに保健医療福祉活動における看護の特徴、専門職業人としての看護師について学ぶ。				
授業目標	1. 看護学の概念を明確にし、看護学の意義、必要性、看護実践の理論についての基礎を 学ぶ。 2. 看護の対象である人間を健康と生活環境との関わりの中で理解し、その人に応じた看 護の必要性を学ぶ。				
回数		授業内	容		担当者
第1回 第2回	1. 看護について考える 1) 学問としての看護 -	職業としての)看護 - 患	者中心の看護	
第3回	2) 看護の対象	190716 2 3 4			
第4回	3) 看護とは何か(看護の 2. 人間について考える	目的)			
第5回	2. 人間について考える 1) 人間とは何か				
第6回	2) 人間の共通性と個別性3) 基本的看護の構成要素3. 看護の役割と機能の理解1) 法的・倫理的責任	!			
第7回	 チーム医療における連 患者の自立と支援 看護が機能する場 安全・安楽の追求 医療における安全 医療における安楽 専門職としての看護 	携と協働			
第8回	6. 認定試験				
自己学習	ナイチンゲール「看護覚え書 ヘンダーソン:「看護の基本。 関連科目:健康論I、看護学	となるもの」	を読み、主旨		
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護 フローレンス・ナイチンゲー ヘンダーソン:看護の基本と	ル:「看護覚	え書」-看護	であること看護でな	いことー(現代社)
評価方法	筆記試験:50%、課題レポー	- ト・授業参加	叩への意欲・	態度等:50%	
	l				

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期	切
専門	看護学概論Ⅱ	1	15	1 年次 ·	2 学期
担当講師	専任教員(病院での看護経	験あり)	,		
授業概要	看護の歴史から人々のる。看護専門職業人として 理の基本的知識を学ぶ。 し、リサーチマインドを	て看護の現場 看護研究の必	にある倫理的記 要性とアドボク	果題に気づき行動する ケイトとしての看護者	るための看護倫 皆の役割を理解
授業目標	 看護の原点と職業とし 看護倫理の基本的知識 根拠に基づく看護実践 	を学び、自己	己の看護実践か	ら倫理的課題につい	て考える
回数		授 業	内 容		担当者
第1回	1. 看護の歴史				
	1) 看護の原点と職業	こしての看護			
第2回	2) 戦後から現在まで				
第3回	2. 看護倫理の基礎知識 1) 倫理学の基本的なる	考え方			
	2) 生命倫理の4原則				
	3) 看護実践上の倫理的	勺概念			
第4回	4) 看護師の倫理				
第5回	5) 看護職の倫理綱領				
第6回	6) 倫理的問題のアプロ	コーチ			
第7回	3. 看護研究の基礎 1) 看護研究の必要性 2) 看護研究における(侖理			
第8回	認定試験				
自己学習 関連科目	関連科目:倫理学、看護等	学概論 I			
テキスト	新体系看護学全書 基礎系系統看護学講座 看護倫理			ヂカルフレンド社)	
参考図書	ナイチンゲール伝 図説	看護覚え書の	とともに 医学		
評価方法	筆記試験:60%、課題レス	ポート等講義	参加態度:40%	6	
	レポート課題については、	後日詳細を担	 是示する。		

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講	時期
専門	基礎看護技術 I	1	30	1年次	· 1 学期
 担当講師		<u>」</u> うり)	1		
	看護師が行う看護行為の包括	•	 看護技術に~		
	すべての看護実践の基盤とな				-
授業概要	ーション技術、感染予防の技	術について講	義・演習を通	通して学習する。ま	た、人間の生活
	行動に大きく影響を与える環	境について、	人間と環境と	との関係や療養環境	竟の調整方法を、
	講義・演習を通して学習する	0			
	1. 看護技術の特徴、基本原		_		
	2. 人間のコミュニケーショ	·		· · · · · · -	
新口光 郊	3. コミュニケーション技術	すを用いて 看談	隻の目的を達	成していくことの	重要性を埋解す
授業目標	る 4. 感染予防のための援助技	: おみ羽倶する			
	5. 人間と環境の関係と生活		-	お要素について理 値	解する。
	6. 療養環境を整えるための			人女派(こう) (2年)	IT) 00
回数	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	授業内			担当者
第1回	1. 看護を実践するために必	要な技術			第1回
	1) 人間の生活行動とは	2) 基礎看	護技術とは何	「カゝ	~3回
第2回	2. 良好な人間関係づくりに				
	1) 話すこと、聞くことの				
	2) 声を出す、聞く、言葉				
第3回	3) 関係構築のためのコミ4) 看護の対象を理解する			、壮华 (淀羽)	
第 3凹	4) 看護の対象を理解する5) 話すこと、聞くことが			/ 1文州 (興百)	
第4回	3. 外敵から身を守る技術	TO SEL COLON	(1)L C 1)Z 19J		第4回
7,7 1	1) 感染予防の意義と方法	<u>.</u>			~7回
	2) 感染症の成立過程と要	素			
	3) 感染症を予防するため	のプロセス			
第5回	(1) 微生物を伝播させ	ないための看	護技術		
	(スタンダードプリ	コーション、	感染経路別	予防策)	
	手指衛生・個人防				
第6回	(2) 感染源を死滅・滅		の看護技術	(消毒・滅菌法)	
第7回	(3) 感染性廃棄物の取				
	(4) 針刺し・切創の防 滅菌物の取り扱い		(美昭 <i>(</i>) (安羽)		
第8回	(級国物の取り扱い 4. 環境を整えるための技術		/ 自忧 (供百)		第8回
第9回	4.				~14回
7,00	(1) 環境と人間の関係	(2) 環境	急の構成要素		
第 10 回	2) 療養環境の調整の意義		114/9454514		
	(1) 快適な療養環境を	整えるための	視点		
	(2) 快適な療養環境の	条件と環境調	整の必要性		
第 11 回	3) 崩れにくい快適なベッ	ドメーキンク	でが技術		
	(1) リネンの取り扱い	下シーツの	ベッドメーキ	・ング(演習)	
第 12 回	(2) 横シーツ・防水シ	•		(演習)	
第 13 回	(3) クローズドベッド	・オープンベ	ッド(演習)		

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画(Syllabus)

第 14 回	(4) 臥床患者のリネン交換(演習)
第 15 回	5. 技術試験 (1 h)
	6. 認定試験 (1 h)
自己学習関連科目	事前に学習内容に関して文献を調べておく。技術演習は、事前に講義資料・教科書で技術 内容を復習し望むこと。技術の自己練習は主体的に行い、反復練習を行うこと 関連科目:解剖生理学 I ~Ⅲ、看護学概論 I 、基礎看護技術 II・Ⅲ
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メヂカルフレンド社
参考図書	看護における形態機能学(日本看護協会出版会)、看護技術プラクティス(学研)
評価方法	筆記試験:60%(第 1~3 回・第 8~14 回:40%、第 4~7 回:20%)、技術試験:40%

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期	1
専門	基礎看護技術Ⅱ	1	30	1 年次 ・	1 学期
担当講師	専任教員(病院での看護経験を	9)			
授業概要	対象の健康状態を評価する トについての思考と適切にか				ンアセスメン
授業目標	 対象の健康状態を捉える 対象の健康状態を判断す 			•	-
回数		授業内	容		担当者
第1回	1. 看護におけるヘルスアセ	スメント			
	2. フィジカルアセスメント	の基本			
	1) 体表解剖とフィジカル	アセスメント	•		
	2) フィジカルアセスメン				
第2回	3) 一般状態のアセスメン	ト①:バイタ	ルサイン		
第3回	体温測定・脈拍測定・呼				
第4回	血圧測定(触診法)		(演習)		
第5回	血圧測定(触診法)		(演習)		
第6回	血圧測定(触診法⇒聴診		(演習)		
第7回	バイタルサインの一連の				
第8回	4) 一般状態のアセスメン				
~	3. 系統的なフィジカルアセ	スメントの集	際		
第11回	1) 体表面のアセスメント				
	2) 呼吸器系のアセスメン				
	3) 循環器系のアセスメン				
	4) 腹部・消化器系のアセ	スメント			
	5) 感覚系のアセスメント	1			
	6) 脳神経系のアセスメン 5) 次執 (2は、) 次執 (2は、		() o = 1 - 1) > . 1	
	7) 姿勢保持・運動系(脊	.,			
佐10日	8) 呼吸・循環を整える援		,		
第12回	9) 系統的なフィジカルア		ノ夫践 ()質)		
第 13 回	4. 心理的・社会的状態のア				
第1 4回	5. セルフケア能力のアセス c バイタルサインの総合的		/ 「冷涸)		
第14回	6. バイタルサインの総合的 7. ボスカルサインの総合的			☆ ラコラ- ナ (4 − 1 − 1 − 1 − 1 − 1 − 1 − 1 − 1 − 1 −	
第 15 回	7. バイタルサイン測定(技・解剤と知りのいて受別してか	,,,,			
自己学習	解剖生理について学習してか 関連利用・解剖生理学 L 。 M				N向めること
関連科目	関連科目:解剖生理学 Ⅰ~Ⅲ				
テセフ L	新体系看護学全書 基礎看護 新体系委護学会書 基礎季護				
 テキスト 	新体系看護学全書 基礎看護 能公をまき他監修 季蓮がみ				EDIA
公本 図書	熊谷たまき他監修 看護がみ 山内豊明 フィジカルアセス				ыDIA
参考図書				五子音阮/	
評価方法	筆記試験及びレポート課題等	:60%、技術	対試験:40%		

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期			
専門	基礎看護技術Ⅲ	1	30	1年次 ・ 1	学期		
担当講師	専任教員(病院での看護経験	専任教員 (病院での看護経験あり)					
授業概要	ぶ。 食事の意義を理解し、食事	活動と休息の意義を理解し、対象のもつ力に応じた支援方法を講義・演習を通して学ぶ。 食事の意義を理解し、食事に関連する一連の生体メカニズムを理解した上で、自力で食事 摂取が困難な対象(口腔ケアを含む)の支援方法を講義・演習を通して学ぶ。					
授業目標	1. 活動と休息の意義・支			-			
	2. 食行動の意義・支援力			習得する。	t		
回数		授業			担当者		
第1回	1. 活動を支える技術				第1回		
	1) 活動と休息の意義	-,,		要因とアセスメント	~9 □		
第2回	3) 活動促進や安静の弊						
~3 □				、安楽な姿勢・体位の保持)			
	体位変換の実際(演	[習:水平移動	」、仰臥位⇔側	則臥位⇔端座位)			
第4回	4) 移動を支える技術						
\sim 5 回	もつ力に応じた補助。	具の種類、その	の選択、使用	方法、移乗と移送の技術			
	移乗・移送の実際	(演習:車椅子	- ・ ストレッチャー移	乗・移送、歩行介助)			
第6回	2. 休息と睡眠の意義、休	r息を支える!	支術(安静保	持の援助、睡眠の援助)			
\sim 7 回	3. 活動と休息への支援を	考える					
第8回	4. 体位変換の技術チェッ	ック (1h)					
第9回	5. 食行動を支える技術						
第 10 回	1) 食べる意義 2)	食べるメカニ	ズム 3) 食	行動の種類	第 10 回		
~11 回	4) 食事の種類(治療食	・療養食)	5)栄養状	だ態のアセスメント方法	~14 回		
第 12 回	6. 自力で食事摂取が困難	誰な対象の食事	事援助技術				
~13 回	1) 食事介助						
	(1) 食事介助の目的と	: 方法 (2)	食事介助の)実際(演習)			
第 14 回	2) 口腔ケア						
	(1) 口腔ケアの目的と	: 方法 (2)	口腔ケアの)実際(演習)			
第 15 回	認定試験 (2 h)						
関連科目	解剖生理の知識が必要となっ 演習は、講義で学習した技行を要するので、各自個人で 関連科目:『解剖生理学 I・ の「環境」	おについて教え も練習を重ねる	科書・資料を ること。	熟読し参加する。 安全を気	ぞるには技術		
テキスト	新体系看護学全書 基礎看記 新体系看護学全書 基礎看記						
参考図書	菱沼典子 看護 形態機能 藤本真記子 看護技術がみ	学 生活行動	からみるから	だ(日本看護協会出版会)			
評価方法	筆記試験:100% (第1~9	9回:60%、	第 10~14 回	: 40%)			
備考	不用意であると怪我や腰痛	育などの発生の	の恐れがある	ため、十分留意して取り	組むこと。		

分野	授 業 科 目 名 単位数 時間数	開講時期				
専門	基礎看護技術IV 1 30	1 学次・2 学期				
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)	専任教員(病院での看護経験あり)				
授業概要	身体をきれいにすること、衣服を着ること、排泄すること 営む上で欠くことのできない生活行動である。科学的根拠 障害時における基本的な支援技術を患者役・看護師役を通り	に基づく理解をした上で健康 して技術の習得をめざす				
授業目標	3. 身体をきれいにする意義・衣生活への支援方法を理解し 4. 排泄を整える方法を理解しその技術を習得する	しその技術を習得する				
回数	授 業 内 容	担当者				
第1回	1. 衣生活の支援技術	第1回				
	1) 衣生活を整えることの意義 2) 衣生活に影響する2) 衣生活へのアセスメント	る要因 ~9回				
第2回	2. 寝衣交換の技術(演習)					
第3回	3. 身体の清潔を保持する支援技術					
	1) 清潔の意義 2) 清潔に影響する要因 3) 清潔の	のアセスメント				
第4回	4. 清潔支援の適応とその具体的方法					
	1)清拭の基礎:部分清拭(演習)					
第5回	2)全身清拭(演習)					
第6回	3) 洗髪・整容 (演習)					
第7回	4) 部分浴(手浴・足浴)・シャワー浴・機械浴(演習	1)				
第8回	5) 陰部洗浄 (演習)					
第9回	6) 全身清拭・寝衣交換(演習)					
第 10 回	5. 排泄の支援技術	第 10 回				
	1) 人間の生活における排泄の意義(生理的・心理的	社会的) ~14 回				
	2) 排泄のメカニズム 3) 排泄に影響を与える要因					
	4) 排泄に関するアセスメントの視点					
第 11 回	6. 自然排泄(排尿・排便)を促す支援					
	1) 尿器・便器 2) ポータブルトイレ 3) オムツ					
第 12 回	7. 尿器・便器・ポータブルトイレを使用する排泄支援技術					
第 13 回	8. オムツ交換・排泄に困難をきたしている人(グリセリン 排泄支援技術の実際(演習)	ン浣腸・摘便)の				
第 14 回	9. 排泄障害のある患者の看護					
第 15 回	10. 技術試験:全身清拭 (1 h)					
	11. 認定試験 (1 h)					
関連科目	事前課題・事後課題に取り組み、関連する教科書や資料を累解剖生理学 I ~Ⅲ、基礎看護技術 I ・Ⅲ	熟読して授業・演習に臨むこと				
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メラ 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メラ					
参考図書	授業の中で提示する					
評価方法	筆記試験:60%(第1~9回:20% 第10~14回:40%)	、技術試験:40%				

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期			
専門	基礎看護技術V	1	30	2 年次 ·	2 学期		
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)						
授業概要	与薬時の看護師の役割を踏 習を通して学ぶ。また、検査に 習を通して学ぶ。	における看護	師の役割をふ	まえ、検査時の実際			
授業目標	1. 診療(治療・検査)にお 2. 与薬の種類とその特徴を 3. 検査における看護師の役	理解し、確実	に与薬する基	本技術を習得できる	0		
回数		授業内	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		担当者		
第1回	1. 検査時の看護技術				第1回		
	1) 検査の概念と看護師の役 3) 放射線被ばく防止策	と割 2)検 査	その種類と方法	:	~4 回		
第2回	2. 簡易血糖測定の方法(演	習)					
第3回	3. 静脈血採血(演習)						
\sim 4 \Box							
第5回	4. 与薬の看護				第5回		
	 5 与薬における看護師の 5 与薬方法と効果の観察 6 経口与薬法の援助 	4)	薬剤の種類と 与薬の副作用 与薬の実際	取り扱い (有害事象)の観察	~14回		
第6回		直腸内与薬法 その他(膣剤		・塗擦法・貼付			
第7回	6. 与薬法の実際 (演習:	直腸内与薬法	、塗布・塗擦	法・貼付)			
第8回	7. 注射薬による与薬の援助						
	1) 目的・適応 2) 注射 4) 注射薬 5) 注身			吏用器具と取り扱い			
第9回	8. 注射薬の準備と実際 (演習)					
第 10 回	9. 皮下注射(演習)						
第 11 回	10. 筋肉内注射(演習)						
第 12 回	11. 静脈内注射・点滴静脈内						
第 13 回	12. 点滴静脈内注射をしてい						
第 14 回	13. 輸血時の看護・注射法に		機器				
第 15 回	14. 技術チェック:筋肉内注	射 (1 h)					
4 - W ==	15. 認定試験(1 h)))/, , , /스코르 ·					
自己学習 関連科目	既習内容の解剖生理学・薬理 関連科目:基礎看護技術 I、			· ·	助論、		
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護	学②③ 基礎	看護技術 I ·	Ⅱ (メジカルフレン	ド社)		
参考図書	看護につながる形態機能学 看護がみえる vol.2 臨床看護			î			
評価方法	筆記試験及びレポート課題等				%)		
1-1 Ind> 0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	=== / = (> 3	- 11 . 007	. , ,,,, , , , , , , , , , , , , , , ,	- /		

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期	月	
専門	基礎看護技術VI	1	30	2 年次 ・	1 学期	
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)					
too alla tama	生きているための生活行動を					
授業概要	命処置技術、生きていくため 診療の補助技術について、講				丁動に関する	
	1. 呼吸・循環を整える診療	の補助技術の	適応を理解し	し、その方法を習得る	よう。 よる。	
授業目標	2. 救命処置技術の適応を理	解し、その方	法を習得する	5.		
	3. 食事・排泄行動に関する	診療の補助技	術の適応を理	理解し、その方法を習	習得する。	
回数		授業内			担当者	
第1回	1. 呼吸に関する支援技術				第1回	
	1) 効果的に排痰を促す援	助技術(演習)		~9 □	
第2回	(1) 気道内加湿 (2)	体位ドレナ	ージ (3) >	スクイージング		
第3回	2) 一時的吸引の適応とそ	の具体的方法	(演習)			
第4回	(1) 口腔内吸引・鼻腔	吸引 (2)	気管内吸引			
第5回	3) 酸素吸入の適応とその	具体的方法(演習)			
第6回	(1) 酸素吸入法の実施	(2) 酸素:	ボンベの操作	Ē		
第7回	2. 救命処置技術					
第8回	1) 生命危機状態のアセス ;	メント				
第9回	2) 心肺蘇生の方法:一次排	效命処置 BI	S AED	(演習)		
	3) 包带法、止血法、創傷與	処置 (演習)				
第 10 回	3. 栄養に関する診療の補助	技術			第 10 回	
第 11 回	1) 経管栄養法の種類と特征	数			~14 回	
	2) 経鼻胃チューブの挿入	・固定・確認	(演習)			
第 12 回	3) 経鼻胃チューブからの?	流動食の注入	(演習)			
第 13 回	4) 経管栄養法の観察					
第 14 回	4. 排泄に関する診療の補助	技術				
	1) 一時的導尿(演習)					
	2) 膀胱留置カテーテル挿	入患者の観察				
	3) 膀胱留置カテーテル挿え	入患者のカテ	ーテル固定・	管理・感染予防		
第 15 回	5. 一時的導尿(技術試験	1 h)				
	認定試験(筆記試験 1	h)				
	事前に学習内容に関して文献	を用いて調べ	ておく			
自己学習	技術試験は既習の無菌操作を	用いた技術と	なる。事前の	の復習・解剖生理学を	と踏まえ、繰	
関連科目	り返しの練習が求められる					
	関連科目:成人援助論 I・Ⅱ	· III • IV				
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護	学② 基礎看	護技術 I	メヂカルフレンド社		
ノイグト	新体系看護学全書 基礎看護	学③ 基礎看	護技術Ⅱ	メヂカルフレンド社		
評価方法	筆記試験:60% (第1~9回	: 40%、第 10)~14 回:20	0%)、技術試験:40	%	

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時 期	J.	
専門	基礎看護技術Ⅶ	1	15	1 年次 •	2 学期	
担当講師	専任教員(病院での看護経験あ	り)				
授業概要	看護は、対象者の現状や今起きている健康に関わる問題の原因を捉え、今後起こりうる問題も予測しながら、対象に合った看護支援を導き出し実施していく。その過程の中で、問題解決思考過程を用いて看護を展開していくことは有効である。そこで科学的根拠に基づき"対象を適切に捉え、看護上の問題点を導き、看護によって望ましい姿に近づける計画を立案し、実施・評価する"という、一連の看護過程の展開技術を学ぶ。					
授業目標	2. 対象の現状に応じた看護					
回数		授業内邻	容		担当者	
第1回	1.看護過程とは 1) 看護過程の目的・意義 2) 看護過程の基盤となる	考え方				
第2回	2. 看護過程の展開技術					
第3回	1) 看護過程の構成要素と	プロセス				
第4回	2) アセスメント 3) 看護上の問題の特定と	優先順位の決	定			
第5回	4) 看護計	タ ブロバス エ マン <i>D</i> へ	~_			
	(1) 看護目標の設定 (2) 計画(具体策)の立	案				
第6回	5) 実施・評価					
第7回	3. 看護診断とは 4. 看護記録					
第8回	5. 認定試験 (1 h)					
自己学習	事例展開のために、事例の特徴	的な身体機能	や生理、生活や	や発達に関すること	を学習する。	
関連科目	関連科目:『症候治療論 I ~IV					
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護 看護が見える vol.4「看護過程				ド社	
参考図書	NANDA-I 看護診断 定義と	分類 2021-20)23 (医学書	院)		
評価方法	筆記試験:50%、レポート課題	題等:50%				

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期		
専門	健康教育論	1	15	2 年次 ・1 学	芝期	
担当講師	専任教員(病院での看護経験	験あり)				
授業概要	方法について理解する。さ 教育の対象者や患者体験を	「教育」「指導」の本来的意味合いを知り、その上で具体的な集団・個人に対する指導 方法について理解する。さらに実習で活用できる健康教育を学習するために、実際の健康 教育の対象者や患者体験を通して、「わかる」「できる」とはどういうことかを考え、対象 者の目的を達成するための対象者に適した方法を考案する。				
授業目標	 「教育」「指導」の意味を理解する。 健康を維持するための教育の方法を理解する。 健康行動理論を理解し、実践への活用について理解する。 健康教育の演習をとおして、効果的な健康教育の展開方法を体験する。 					
回数		授業	内 容		担当者	
第1回	1. 健康教育の考え方					
第2回 第3回 第4回	 健康教育の定義 健康教育の目的 患者教育の考え方 患者教育とは 					
第5回	 患者教育の特徴 保健行動 保健行動の分類 保健行動への変容 					
第6回	 4. 健康行動理論の活用 5. 患者指導の実際 1) 指導の効果を最大限 	に高める方法				
第7回	2) 学習のニードのアセ3) 指導の形態					
第8回	 4) 対象に合わせた指導 5) 指導の評価 6) 健康教育の方法と媒 6. 健康教育の実際 個別の健康教育の実際 	体				
	7. 認定試験 (45分)					
関連科目	関連科目:成人援助論 I ・	Ⅱ • Ⅲ • Ⅳ	、地域・在学	它健康維持論	•	
テキスト	最新保健学講座 別巻1	健康教育論	メヂカルフ	レンド社		
参考図書	松本千明著:医療・保健ス	(タッフのた)	めの健康行動	理論の基礎		
評価方法	筆記試験:50%、プレゼン	<i>゚</i> テーション	• 受講態度等	: 50%		

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期	·		
専門	健康障害援助論	1	30	1年次 ・	2 学期		
担当講師	専任教員(病院での看護経験を	専任教員(病院での看護経験あり)					
授業概要	健康障害をもつ対象を理解し	、その状態に	に応じた看護	のあり方や支援方法を	·学ぶ。		
授業目標	1. 各健康レベルにおける患者 2. 治療を受ける患者および努			ŭ			
回数		授業内	容		担当者		
第1回	1. 健康状態の経過に基づく				第1回		
	1) 健康とは				~9 □		
	2) 健康の維持・増進を目る	ざす時期の看	護				
第2回	3) 急性期における看護:急情	生期の特徴・	治療の特徴・	看護援助			
第3回	4) 回復期における看護:[回復期の特徴	・治療の特徴	女・看護援助			
第4回	5) 慢性期における看護: 1	曼性期の特徴	・治療の特徴	女・看護援助			
第5回	6)終末期における看護:						
~第6回	·	海終時の看護 高終時の看護	、死後のケア	•			
第7回	2. 治療・処置を受ける対象を						
	1) 化学療法を受ける対象						
第8回	2) 放射線療法を受ける対象						
第9回	3)手術療法を受ける対象						
	4) 集中治療を受ける対象	への看護			第 10 回		
# 10 □		n 工 - #*			~14回		
第10回	3. 主要な症状を示す対象への		の手業				
第 11 回第 12 回	1) 呼吸に関連する症状を 2) 循環に関連する症状を						
第13回	2) 循環に関連する症状を/ 3) 栄養や代謝に関連する症			ŧ			
第14回	3) 未後へ八碗に関連する症状をデ 3) 排泄に関連する症状をデ			₹			
N) I T E	4) 安楽に関連する症状をデ	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		重 悪小・嘔吐			
第 15 回	4. 認定試験・まとめ	1. / //13/-1	*//日i文・/2/II				
	教科書及び関連科目の該当範	囲を予習・復	夏習して講義	に臨んでください。			
自己学習	関連科目:解剖生理学 I・Ⅱ	·Ⅲ、症候治:	療論Ⅰ・Ⅱ・	Ⅲ・Ⅳ、基礎看護技術	· Ш · IV ·		
関連科目	VI、成人・老年・						
	系統看護学講座 専門分野 闘		_ , _ , _	~			
	新体系看護学全書 基礎看護学 新体系看護学全書 基礎看護学	_					
テキスト							
	系統看護学講座別巻 リハビリ			完			
	系統看護学講座別巻 臨床放射	対線医学 医学	全書院	*必要時指示します			
参考図書	川島みどり他 経過別看護						
	高木永子 看護過程に沿った対						
評価方法	筆記試験及びレポート課題等				5%)		
備考	DVD などを活用し、臨床イン	メージを高め	ながら学習す	⁻ る。			